

News Release

2022年1月6日

当社代表取締役社長 登坂正一による、太陽誘電グループ従業員向けの「2022年 年頭挨拶」の内容を以下の通りお知らせいたします。

「おもしろさ」を原動力に、わくわくしながらしなやかに進んでいこう

新型コロナウイルス感染症の影響で人々の生活スタイルは急激に変化し、働き方までもが大きく変わりました。先行きが見通しにくい状況が続いていますが、デジタル化が進み、あらゆるものが「つながる世界」への流れは今後ますます加速し、電子部品の需要は拡大していくでしょう。

2021年4月、太陽誘電グループの「中期経営計画 2025」が始動しました。この中期経営計画は、売上や利益など経済価値に加え、ESGに関連する社会価値についても目標を掲げ、それらを両輪として企業価値向上を目指していくというのが大きな特徴です。

経済価値の面では、積層セラミックコンデンサ(MLCC)、インダクタ、通信デバイスを3本柱として成長させていきます。MLCCについては、さらなる生産能力増強に向けて国内の太陽誘電八幡原工場、マレーシアのTAIYO YUDEN (SARAWAK)、中国の太陽誘電(常州)の3拠点で新工場の建設に着手しました。また、新事業として社会課題へのソリューションも提案していきます。多面的な視点からニーズを捉え、蓄積してきた技術や強みを応用することで社会に貢献していけると考えています。

社会価値については、ESGへの取り組みを加速します。事業規模の拡大とGHG(温室効果ガス)絶対量の削減という2つの目標を共に達成するのは、決して簡単なことではありません。今までの延長線上のやり方ではなく、脱炭素思想に基づくものづくりを推進し、新たな技術や発想などを取り入れて太陽誘電グループ全体で取り組まなければならない時期が到来していることをしっかり認識し、省エネ・創エネ・再エネを推進していきましょう。

また、太陽誘電グループのミッション「おもしろ科学で より大きく より社会的に」を策定しました。このミッションは、ますます変化が速く激しくなる時代の中で、私たちが存在意義を見失うことなく進んでいくためのものです。これまで私たちが蓄積し体系化してきた知識や経験の先には、思わぬ発見や驚きなどの「おもしろさ」との出会いがあり、それが新しい価値をもたらします。ミッションには、太陽誘電らしい「おもしろ科学」を原点としてさらに大きく成長し、社会的な貢献を果たしていこうという思いが込められています。

この不安定な時代に、しなやかさとおもしろさをもって、変化していくことに皆でわくわくしながら新しい価値を創造していきましょう。